

■本市が目指す新たな公園像について

東日本をけん引する中枢都市としての期待が高まる本市は、市街地が河川と緑地に挟まれ、都市生活の享受と自然に親しむ暮らしを両立するポテンシャルを有しています。市街地では、公園が、都市に潤いをもたらす重要なインフラとなっており、緑豊かな身近な公園や自然環境を生かした公園、スポーツやアクティビティができる公園など様々な公園を整備し、都市の活性化と市民の生活を支えてきました。今後は、既存ストックを生かしつつ、“公園から本市の魅力を発信する”まちづくりを目指すとともに、メンテナンス中心の公園管理から転換し、新たに経営の視点を取り入れた公園づくりを推進します。また、公園を訪れる誰もが安全・快適に楽しめるインクルーシブな公園づくりを目指します。

公園像① さいたまの都市ブランド力を高める公園

○花修景や周辺資源との連携、公園を活用した賑わい創出等により地域経営の拠点となることで、まち全体のイメージを形成し、地域に人や企業の投資を呼び込み、東日本をけん引するさいたまの都市ブランド力を高める公園を目指します。



イメージ写真（イラスト化予定）

公園像② 都市と自然が融合したみどり豊かな公園

○見沼田圃や荒川など豊かな自然が市街地に近い本市のポテンシャルを最大限に活用し、樹林や農地、動植物の生息地と一体となって、市民が自然と触れ合える公園を目指します。



イメージ写真（イラスト化予定）

公園像③ 個々のライフスタイルに応じた地域交流の中心となる公園

○地域や利用者ニーズに応え、地域の価値創出や課題解決、スポーツの場となることで、地域住民の生活満足度が高まり、地域への愛着が醸成され、住み続けたいまちの中心となる公園を目指します。



イメージ写真（イラスト化予定）

■パークマネジメントの導入

公園は、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層から利用され、自然とのふれあいやレクリエーション活動、ヘルスケアやスポーツ等、利用される目的は多岐にわたります。また、時代の変化や利用者のニーズが多様化しているなか、既存のストックを賢くしなやかに使いこなす考え方が求められています。

今後は、新たな機能を有する公園を整備することに加え、人中心のまちづくりの中でポテンシャルを最大限発揮するために、多様な主体と連携した持続可能な管理運営の方向性を示すパークマネジメントの考え方を導入します。

パークマネジメントの導入にあたっては、見沼田圃や荒川、元荒川周辺の豊かな自然環境や、氷川参道や盆栽村に代表される本市の歴史文化を伝える緑資源など、本市のポテンシャルを生かした特色ある公園となるよう留意します。

ー本市におけるパークマネジメントの方向性ー

○公園のストック効果の発揮

公園のストック効果をより高め発揮するため、地域の実情やニーズに応じて、必要な機能や施設の導入、再編等に取り組みます。

【取組イメージ】

- ・市民及び来訪者の利用シーンを考慮した公園の再編・リノベーション
- ・ニーズの多様化に応じた、インクルーシブやニューノーマルに対応する機能導入
- ・グリーンインフラの設計と実装、脱炭素社会の実現に向けた機能導入
- ・公園DX（公園の整備や管理運営におけるデジタル・トランスフォーメーション）を実現する新技術等の導入

○多様な主体による公園の魅力向上と管理運営

事業者や市民、公園利用者など多様な主体が公園の整備や管理運営に携わることで、担い手を広げ、公園を最大限活用できる環境を整備し、魅力の向上を図ります。

【取組イメージ】

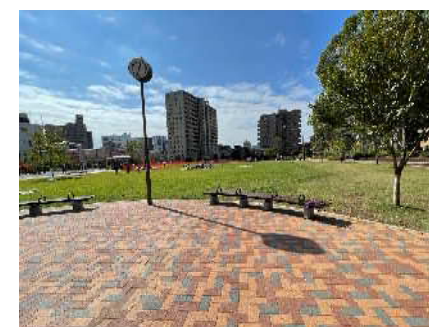
- ・Park-PFI等の公民連携事業の導入
- ・公園管理運営の担い手の確保や財政負担の低減

○柔軟な公園のルールづくり

公園利用者や地域住民が、公園利用ルールについて話し合うことで、その公園の利用実態に合った柔軟な管理運営を行います。

【取組イメージ】

- ・地域住民等と連携した柔軟な利用ルールの設定
- ・地域が主体となった持続的な公園の管理運営



リニューアルした常盤公園



与野公園 Park-PFI 導入イメージ



別所沼公園協議会の様子